

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成22年12月24日 (2010.12.24)

【公表番号】特表2009-525776(P2009-525776A)

【公表日】平成21年7月16日 (2009.7.16)

【年通号数】公開・登録公報2009-028

【出願番号】特願2008-553402(P2008-553402)

【国際特許分類】

A 6 1 M 27/00 (2006.01)

A 6 1 F 13/00 (2006.01)

A 6 1 M 1/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 27/00

A 6 1 F 13/00 Z

A 6 1 M 1/00 5 8 0

A 6 1 M 1/00 5 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成22年10月28日 (2010.10.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

図 6 は、図 4 と基本的に同一の負圧アダプタ 2 2 を反対側からみた図である。図示された部品は構造的に図 4 と同一であり、連結具が横方向（及び広がり、放射状）に対称であることを示している。そうではないことが指示されない限り、本発明の改良された連結具を構成する材料は、必要なフレキシビリティと患者に対する快適さを提供しつつ負圧アダプタ機能と一体型で開いた管腔を維持するために十分な剛性又は弾性を有する技術的に公知の様々な材料から選択されてもよい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

図 8 は、本発明の負圧アダプタに付随する基部の代替の例示的な実施例を示す。この図（図 7 と同様の斜視図）は、代替の基部 5 2 の下面に特性を付加して示している。基部 5 2 の構造内に成形されたこれらの特性は、基部の鋸歯状のガイド用のチャネル 7 0 と、周辺の収集チャネル 7 2 と、中間の収集チャネル 7 4 とを具える。これらのチャネルの目的は、液体を 2 つの測定用の補助ポート 5 6、5 8 から離して主ポート 6 0 内へ向けることである。基部の鋸歯状のガイド用のチャネル 7 0 は、基部 5 0 上に配設され、負圧アダプタ内へ引き入れられた液体の少なくとも半分を直接的に捕捉して流し、この中に引き入れられた液体の残りの主な部分を間接的に流すように方向付いている。間隔を空けて放射状に並んだこの基部の鋸歯状のガイド用のチャネル 7 0 は、液体を補助ポートから離して主ポート内へ集める。さらに、周辺の収集チャネル 7 2 及び中間の収集チャネル 7 4 は、放射状に配置されたガイド用のチャネル 7 0 の間に引き入れられた液体の流れをガイド用のチャネル 7 0 へ向けて補助ポートから離す。この流れ方向の例を太矢印で図 8 に示し、流

れを示す。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

同様の構成が、およそ 3 分の 1 の円で放射状の鋸歯状のチャネル部分 44 に形成されている。内部の導管が凹部領域 54 のこの部分内に収容されていない限り、部分 44 の鋸歯状のチャネルはより深く、より直接的に主ポート 60 へ延在する。これらの放射状の鋸歯状のチャネルは、開口 54 の周辺部から主ポート 60 に排出する凹部領域 54 の頂部へ方向付いている。これらの放射状の筋又はチャネルは、放射状の近接する補助ポート 58 から、放射状で約 3 分の 1 の円周辺に、放射状の近接する補助ポート 56 へ延在する。凹部領域 54 のこの部分の上に落ちるどんな液体も、いずれかの補助ポートのに向けられずに、中央の主ポート 60 へ向けられる。